

## 交通安全こいのぼり啓発 5/10 (木)

藤波幼稚園の年長組園児28人がジュニアポリスに変身し、高島交通安全協会と共に、道の駅「藤樹の里あどがわ」で交通安全啓発活動を行いました。「シートベルトを締めて交通安全をお願いします」と元気良く声を掛け、子どもの日にあわせた手作りのこいのぼりチラシを配りました。かわいいジュニアポリスの呼び掛けのとおり、大人が率先して安全運転を心掛け、交通事故を起こさないようにしなければなりません。(交通対策課)



## 風よ、雲よ、歌よ、想いよとどけ 5/20 (日)

近江白浜水泳場で開催された「風人の祭in湖西」に、市内から、地雷をなくそう！子どもキャンペーンの子どもたちが参加し、「音楽を通して平和を願い、自然を思う」をテーマに発表しました。会場内ではリユース食器が使われるなど環境にも配慮されており、「自然を感じ」「自然を考える」イベントになりました。(青少年課)



## 「おいも 大きくなーれ！」 5/22 (火)

しろふじ保育園裏の畑で、しろふじ保育園・高島保育園の園児がサツマイモの苗植えを行いました。指導してくださった、高島農業後継者クラブのみなさんの「おいも大きくなーれ」の掛け声に合わせて、みんな楽しく植え付けをしました。秋の収穫が楽しみです。(高島支所地域振興課)



## 体験・発見・大冒険！ みんなでつくる高(ら)島 6/3 (日)

今津総合運動公園で「第2回たかしまこどもまつり」が開催されました。予想以上の来場者に模擬店も売り切れが続出し、巨大シャボン玉などの体験コーナーでは楽しそうな歓声が上がっていました。ステージでは、カラーガードやバンド演奏など子どもから大人まで日頃の活動を発表し、大きな拍手がわき起こっていました。笑顔いっぱいの楽しいお祭りになりました。(青少年課)



## 安倍首相 ようこそ高島市へ！ 6/2 (土)

長浜市での視察を終えられた安倍晋三首相が、2日の午後に高島市を訪れ、新旭町針江地区の「かばた(わき水を利用する洗い場)」などを視察されました。三宅さん宅のかばたを見学された首相は、かばたの水をコップでごくごく飲まれたり、針江大川で水遊びをしていた子どもたちに声をかけられていました。



## 中央分水嶺・高島トレイル整備が始動 5/22 (火)

市内の中央分水嶺に存在する貴重な自然資源や文化歴史資源を保全し、活用するため、地元山岳会や観光関係者が組織を立ち上げ、「中央分水嶺・高島トレイル」としてトレッキングコースを整備する取り組みが始まりました。当日は、地元関係者や陸上自衛隊今津駐屯地の自衛官などのご協力により、約80Kmに及ぶトレイルコースの道標設置作業が行われ、「中央分水嶺・高島トレイル」として生まれ変わりました。今後、市民の皆さんに親しまれる大切な資源として保全し活用したいと考えています。(商工観光課)



## ひまわり学級発表会 4/27 (金)

公立高島総合病院の院内学級に通っているお子さんによる発表会が開催されました。当日は小児科の先生や校長先生、そしてたくさんの看護師さんたちに囲まれながら、歌ったり、オルガンを演奏したり、ファッションショーをしたりと、明るく元気な笑顔をいっぱい振りまきながら、楽しいひとときを過ごしました。(公立高島総合病院)



# 写真まちねた 真館



あんなできごと、こんな人。まちで起こったホットなニュースを紹介します。ニュースは皆さんから大募集!!  
あなたのこびりつきりを紹介してください。



▲語り・西万木地域文化を考える会 画・早藤典子氏、弘部容子氏  
高島市所蔵 サイズ・188cm×105cm

このように、今ではなかなか想像できない昔の光景を、絵屏風を使って子どもたちに伝え、訪れる人たちに地域を紹介するなど活用しておられます。

(注) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとの思い出やイメージを集約し、絵画によって表現したもの。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

市内の各地で取り組まれている「ふるさと絵屏風(注)」による地域の再発見を、「絵屏風のふるさと巡り」と題してご紹介しています。今回は西万木(安曇川町)の絵屏風です。西万木の絵図は、当時安曇川町の事業として滋賀県立大学の協力を得て、平成14年度から制作に取り組まれました。西万木区は、アパートなどを含めると600程度の世帯と100を越える事業所を抱える大きな地域でしたので、地域内つながりが強まるよう絵屏風の制作に取り組まれたことです。

西万木区では、5月12日(現在は3日)に「万木まつり」が区内の日吉神社と今宮神社で行われ、多いときには馬80頭が列を成したそうです。また、商工業が盛んな地域であり、地域内の約80%の世帯が扇骨(竹で作られる扇の骨)づくりに関わっており、30程度の工程(現在は機械化により18程度の工程になっている)を各世帯が分業していました。琵琶湖に注ぎ込む青井川の上流は、西万木のあたりでは通称「寺川」と呼ばれ、田の用水を取り込む井(井堰のこと)を使って、運河のごとく集落まで(琵琶湖から約4km程度)和船が上がってきて、朽木や古賀などで生産された「繭」を京都などに運んでいたり、扇骨の材料となる竹を運んできたりしていたそうです。

シリーズ  
わさとの郷  
その十八  
絵屏風のふるさと巡り  
ふるさと西万木  
絵屏風